

学融合推進センター 運営委員からのメッセージ

本ニュースレターでは学融合推進センター運営委員からのメッセージをご紹介します。

1. 文化科学研究科 鈴木 七美 教授

「学融合」という言葉に接して懐かしく思い出したのは、1980年代に財団法人で新規機能性材料の探索に携わっていた時のことである。天然物の全合成をめざしていた学生時代とは異なり、ここでは、様々な用途のために高分子膜を開発していた。高齢化時代のニーズを検討し、患者に負担をかけないドラッグ・デリバリーの一方法として、経皮吸収剤の開発が目的として掲げられた。実用に供するため、合成過程の再現性を高めることばかりに集中していた日々の中で、実験室の片隅に皆で寄り集まり静かに社会の動きを話し合ったことは、目的を考える際に、異分野への視野が不可欠だと感じた経験であった。

次に異分野を意識したのは、1990年代に勤務した大学で、「異なる分野の教員が共同で行う研究」への参加が要請された時のことである。示された共同研究の共通目的は、異なる専門分野にあっても教員が互いに興味を持って接し、得られた成果を教育に活かすことであった。現代社会・臨床心理・文化人類学科が共同したプロジェクト「食と癒しの研究」は、その経費を資料収集に使用し、夕方の時間に集合して研究会を続けた。目的を達成するために「調査」「出版」に関わる別の経費が利用できること、成果は共同でも個人でも公開できる、という2つの条件にも助けられ、「病の人類学—人間の多様性と共生」『文化人類学—文化的実践知の探究』（放送大学テキスト）と、『癒しの歴史人類学』の出版に繋げることができた。現在民博にて担当している機関研究プロジェクト「ケアと育みの人類学」は、共通の関心を抱く文化人類学研究者の国際共同研究であり、前述の異なる分野の研究者による共同研究と同様、参加する個々の研究者にとってプロジェクト参加の目的が明確となっており、成果公開に向けて様々な道筋が適用できることが不可欠になっている。

2. 複合科学研究科 速水 謙 教授

本年度から学融合センターの運営委員をさせていただいています。どうぞよろしくお願いたします。私の分野は応用数理で、特に数値解析を専門としています。応用数理とは、工学、自然科学、社会科学などが対象とする諸現象を数理的にモデル化し、数学を用いて解析、予測、設計したりするものです。学問の性格上、分野横断的な側面があり、例えば一つの分野で有効な数理モデルが全く異なった分野でも役に立つことがよくあります。

そのような視点から、普段、総合研究大学院大学の研究、教育に興味をもって見えます。と言っても、英語のプレゼンテーションの講義で他の専攻の学生の発表を聴いたり、教授会の学位審査の報告で好奇心から質問したり、配布される学位論文の要旨集を眺めるのがせいぜいですが。そういう意味ではこの機会を利用してもう少し野次馬根性を発揮させたいと思います。

さて、先月あった学融合研究事業の在り方検討会に参加して思ったことを述べさせていただきます。総合研究大学院大学という様々な分野の研究科・専攻からなる組織での学融合を考えると、研究と教育という大学における双対的な側面を生かすことが考えられます。その一つの方法として、学内でのインターンシップのようなものをしてはいかがでしょうか

しょう。希望する教員が研究テーマを掲げ、それに興味を持った他の専攻、研究科の学生と数か月共同研究を行うのです。これを通して、学生の知識・経験が広まるとともに、それをきっかけとして異なる専攻の教員どうしの交流や共同研究も始まるのではないのでしょうか？

「学融合研究事業の在り方検討会」開催

昨年12月3日（月）に学術総合センターの会議室にて「学融合研究事業の在り方検討会」を開催いたしました。学融合研究事業は平成22年度の学融合推進センターの発足以来、三年間に渡り学内共同研究と若手と女性の個人研究の支援の2つを柱に、本学の特色を活かした研究推進を目標として実施されてきました。初年度に採択した共同研究課題の多くが今年度で終了することに加え、今後国立大学が置かれるであろう状況などを見据え、これまで三年間の経緯と実績を把握すると共に、本学の重要な学内事業の一つとして今後の方針について広く意見交換を行う場を設けることが目的とされました。



検討会当日の様子

当日は30名を越える参加者を交え、約5時間にも渡る議論を交わすことができました。ここで出された意見が必ずしも本学全体の声を反映しているものではないとはいえ、学融合研究事業の今後の方向性についていくつか重要な点が浮き彫りになったと思われます。この検討会で見えてきた課題について、学融合推進センターにて更に議論を行い、本学の研究活動の活性化につながるような支援枠組みの構築へとつなげていきたいと考えております。

学融合研究事業 平成24年度 公開研究報告会 開催

学融合研究事業に採択された研究課題が一同に揃い、闊達な意見交換を行う場として企画されている公開研究報告会も今年で3回目を迎えました。今年は1月24日・25日の二日間に渡り、例年通り葉山キャンパス内の学融合推進センター棟にて開催されました。

開催の形式としては、戦略的共同研究Ⅰ・Ⅱ及び公募型共同研究にて支援されている21件の研究課題が口頭発表を、若手研究者研究支援事業と女性研究者研究支援事業に採択された19件の研究課題がポスター発表を行いました。2日間で60名を越える参加者があり、盛況のうちに幕を閉じました。

1泊2日の限られた時間の中で多くの研究課題についての発表が行われたため、一件あたりの発表時間は短いものでは15分、長いものでも35分となってしまう、もっと色々な議論ができるように十分な時間を設けて欲しいとの声も聞かれ、ポスターセッションについてももっとゆっくと

総合研究大学院大学 学融合推進センター 第3回 公開研究報告会

<開催概要>

・平成25年1月24日(木) 13:30~25日(金) 13:15
(24日の受付は13:00頃から、25日の受付は8:30頃から予定しております)

・総合研究大学院大学葉山キャンパス内
学融合推進センター棟1Fほか

・参加費無料
本学の教員並びに学生には本学規定に基づき、交通費及び宿泊についてサポートが可能です。参加申込み時にお問い合わせください。
(但し、意見交換会の参加費は教員・研究者3000円・学生1500円)

・要申込
宿泊施設・意見交換会の手配数量等確認の関係上、参加をご希望される場合には、必ず平成24年12月21日(金)までにEメールにて参加申込書を学融合推進センター事務局宛にて提出ください。
参加申込書は学融合推進センターのHPよりダウンロードして下さい
URL: http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page_id=43

申込み・問い合わせ先
総合研究大学院大学総務課学融合推進室学融合推進センター係
Email: [cpis-office\[at\]ml.soken.ac.jp](mailto:cpis-office[at]ml.soken.ac.jp)

<プログラム概要(予定)>

・戦略的共同研究Ⅰ	中間報告	5課題
・戦略的共同研究Ⅱ	中間報告	2課題
・公募型共同研究	中間報告	3課題
	最終報告	11課題
・若手研究者研究支援	ポスター発表	13課題
・女性研究者研究支援	ポスター発表	6課題
・意見交換会		

詳細につきましては学融合推進センターのHPをご覧ください。

国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

話を聞きたいというご意見がありました。時間の配分については来年度へ向けた課題となりました。また、上記の学融合研究事業の在り方検討会におきましても、発表があった研究課題などの中から、本学を代表するような研究プロジェクトへとつなげていくことが望ましいとの声も聞かれましたので、これらについても更に検討を行っていきたいと思います。

そして、昨年度より優秀なポスター発表に対し学融合推進センター賞・若手研究者賞・女性研究者賞の三つの賞を設立し、表彰を行っております。今年にご参加いただいた全ての方にご投票をお願いし、受賞者を決定いたしました。受賞者の皆様、おめでとうございます。受賞したポスターにつきましては今後1年間に渡り、学融合推進センター棟内に掲示されます。葉山キャンパスにお立寄の際には是非ご覧下さい。

学融合推進センター賞

「本研究報告会におけるすべてのポスター発表のうち、最も優秀であると評価されたもの」

学融合推進センター 眞山 聡 助教

「太陽系外惑星から astrobiology へ」

若手研究者賞

「学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『若手研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの」

物理科学研究科 構造分子科学専攻 木村 哲就 助教

「生体分子自己組織化過程の時間分解観察を可能にする脂肪二分子平面膜計測系の構築」

女性研究者賞

「学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『女性研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの」

物理科学研究科 構造分子科学専攻 近藤 美欧 助教

「界面電子移動反応を利用した水の完全光分解システムの創成」

学融合推進センター その他の事業予定

2月から4月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページ等に掲載される予定です。申込みが必要な場合もございますので、ご確認の上ご参加ください。

- 科学知の総合化プログラム「大学院教育の現在と『科学と社会』」
@ 学術総合センター 2月9日(土)
 - 葉山特別セミナー「ヒトとアフリカゾウ-共進化の解明を目指して」
@ 学融合推進センター棟2階クリエイティブスペース 2月20日(水)
 - 総研大 学術交流会
@ 総合研究大学院大学葉山キャンパス 3月21日(木)～22日(金)
 - 平成25年度 前学期学生セミナー
@ 総合研究大学院大学葉山キャンパス 4月8日(月)～9日(火)
- 総合研究大学院大学 HP: <http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

編集委員会より

学融合推進センターが発足して3年が過ぎようとしています。現在までに行われてきた事業についても検討や見直しを逐次行いながら、本学の教育研究活動を支える組織としての役割を果たして行きたいと思っております。今後とも各種事業への積極的なご参加、ご協力を宜しくお願いいたします。

(文責: 学融合推進センター 助教 見上公一)

学融合推進センター HP: <http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/>